

修士学位記授与式

修士学位授与式式辞

平成 29 年度数学・数理解析専攻
専攻主任 上 正明

皆さん本日は修士修了おめでとうございます。今は今後の生活に向けて準備されていることと思います。これから博士後期課程に進む人は数学の研究を引き続き行うことになります。一方就職する人は数学に関連する仕事をする場合も、直接数学に関わらない仕事につく人もあるでしょう。数学がどのように役に立つのかという質問には、数学を学ぶことで身につく論理的思考力が様々な分野で発揮されるのだという答え方がなされます。それは間違いないことですが、数学的な結論にいたるまでには直観や類推、様々な試行錯誤の一見非合理的な過程も含まれます。もちろん最終的には厳密な論理に裏打ちされる必要があります。このことはセミナーで数学の文献を読んだり修士論文を作成する過程で皆さんも体験されたと思います。

近年 AI の発展に伴い、AI が人間の思考にどこまで取って代われるのかが問われています。例えば囲碁や将棋などの分野では AI が人間のトップクラスのプロを負かすようになっていますが、これは最近まで予想もされなかった事態で、今後も何が起こるかわかりません。数学的思考においても同様なことが問われていると思います。例えば AI に人間に代わって数学の定理の証明ができるか、新たな定理を発見できるかというようなことです。一部は実現しているかもしれませんが、遠い将来はともかく近い将来 AI が人間の思考に全面的にとってかわるとは思われません。従来の枠組みでは解決しなかった問題が、思いもよらない新たな理論の出現で始めて解決されることは何度も繰り返されてきましたし、今後も同様だと思います。その際には最終的には人間の思考が何よりも重要になるはずで、その意味で皆さんが培ってきた数学的思考力はどの分野においても大きな力を発揮する可能性を秘めています。今後の皆さんの発展を大いに期待したいと思います。

